

(通し番号)	島田市子ども読書活動推進計画（第四次）進捗状況管理表			A（取組・成果共に、よくできた） B（取組はできたが、成果には課題が残る） C（取組・成果共に、もっと努力したい）	
	1 家庭における子供の読書活動の推進	担当課	R 4 評価	R 4 取組内容と課題	
	1-1	(1) 保護者の理解促進のための情報提供や学習会の開催			
	1-1-1	◎ 保護者への情報提供			
1	ア	広報紙やホームページ、島田市公式SNSを活用するとともに、家庭教育情報誌や各施設が発行するお便りなどを通じ、ツールごとの受信者に応じた本の情報や読書に関連したイベント情報の発信を行います。	社会教育課	B	市ホームページやしまいくを活用し、読み聞かせ講座を周知するとともに、島田市ペアレントサポーターのおすすめ絵本リストを図書館及び各施設に配架し、本の情報を発信した。その他、公民館等が発行するお便りに絵本の情報を掲載をする等、連携した情報発信をしていきたい。
2	イ	就学前の全保護者を対象にした「親学ノート」の配布を継続し、島田市ペアレントサポーターが自身の経験談を交えながら、家庭読書や読書の重要性について伝えていきます。	社会教育課	A	市内全小中学校の就学時健診または入学説明会において親学講座を開催し、島田市ペアレントサポーターが自身の経験談を交えながら家庭読書の重要性を伝えた。また、リニューアルした親学ノートにも親子で本に親しむことの大切さを掲載し、全保護者に配布した。
3	ウ	講座に参加できなかった保護者が、講座内容や受講者の感想などを共有できるよう、より多くの保護者に学びの情報を発信します。	社会教育課	A	講座終了後、市ホームページに参加者の感想を掲載するとともに、講座内容を金谷図書館に掲示した。また、講座で配布したおすすめ絵本リストをより多くの方に手に取ってもらえるよう図書館及び各施設に配架した。
	1-1-2	◎ 学習会や講座の開催			
4	ア	家庭教育講座や乳幼児の保護者が集まる機会などを通して、子供読書活動の重要性について周知するとともに、学び合う機会を提供します。	社会教育課	B	家庭教育講座において、絵本に関する冊子やイベントチラシを配付し、読み聞かせの重要性を伝える等、周知を積極的に行った。今後、講座等において、学び合う場をつくっていきたい。
5	イ	家庭教育学級での学習会「つながるトーク」において、家庭読書に関するシートを追加し、読書をテーマに交流することで、保護者同士が共感したり、新たな気づきを得たりするなど学び合う機会を提供します。	社会教育課	B	今年度から新たに家庭読書のシートを追加し、家庭教育学級役員の学習会でシートを用いて保護者同士が交流、共有した。各学校におけるつながるトークでは、家庭読書のテーマで実施した学校はなかったため、家庭読書への関心が高まるよう呼びかけていきたい。
6	ウ	島田市ペアレントサポーターによる保護者向けの読み聞かせ講座を開催し、大人に読み聞かせの心地よさや大切さを感じてもらう機会を引き続き提供します。	社会教育課	A	島田市ペアレントサポーターによる読み聞かせ講座を年2回開催した。大人だけでじっくりと読み聞かせの心地よさを感じてもらい、様々な視点で選ばれた絵本を手取ることで、家庭読書へのきっかけづくりの場となった。
7	エ	読み聞かせボランティア等を対象に、読み聞かせや読書の重要性を学ぶ学習会を継続的にを行い、意識向上を図ります。	社会教育課	A	読み聞かせボランティア及び県子ども読書アドバイザーを対象とした研修を開催し、県立中央図書館の子ども図書研究室の見学や新刊サロンに参加した。
	1-2	(2) 家庭での読書活動への支援			
	1-2-1	◎ 家庭での読書活動の推進			
8	ア	子育て応援サイト「しまいく」や家庭教育講座において、地域におけるおはなし会への参加を呼びかけ、親子で本に出会い、本に親しめるよう支援します。	社会教育課	A	各施設でのおはなし会の日時をしまいくに掲載するとともに、子育て広場参加者や講座受講者におはなし会への参加を呼びかけた。
9	イ	家庭教育学級において、各家庭に適合した家庭読書に取り組む機会を設けます。	社会教育課	A	家庭教育学級において、年間計画に家庭読書を取り入れ、親子で本を読み合ったり感想を言い合う等、各家庭に合った方法で親子で本に親しんだ。
10	ウ	家庭の日を利用して、次のような「家庭読書」への取り組みを呼びかけ、各家庭で実践することを推進します。 ①夜寝る前のコミュニケーションの一つとして、家族全員が読書をする時間を作る。	社会教育課	B	家庭教育講座や親学講座、家庭教育学級において、家庭の日の過ごし方として「家庭読書」の取組みを例に挙げて呼びかけた。家庭の日のチラシには、読み聞かせをする親子の挿絵を取り入れ、来年度に向けて家庭の日を利用した読書に関するイベントを図書館等と連携し、進めていきたい。
11		家庭の日を利用して、次のような「家庭読書」への取り組みを呼びかけ、各家庭で実践することを推進します。 ②子供が読書をしているときには、保護者もテレビを消して、本や新聞を読むよう心がける。	社会教育課		
12		家庭の日を利用して、次のような「家庭読書」への取り組みを呼びかけ、各家庭で実践することを推進します。 ③保護者が読書する姿を子供に見せ、子供が手に取りやすい場所に本を置く。	社会教育課		
13		家庭の日を利用して、次のような「家庭読書」への取り組みを呼びかけ、各家庭で実践することを推進します。 ④図書館、公民館等、児童センターや児童館、地域子育て支援センター、書店など本のたくさんある場所に、子供と一緒に本の楽しさを探しに出掛ける。	社会教育課		

2 地域における子供の読書活動の推進		担当課		
2-1	(1) 地域施設における図書コーナーの整備と充実			
2-1-1	◎ 図書コーナーの整備と図書資料の充実			
14	ア 子供のニーズに合った図書を厳選して購入したり、寄贈本や市立図書館の除籍児童書を精選して受け入れたりすることで、児童センターや児童館、地域子育て支援センターの図書資料が充実するよう支援します。	子育て応援課	B	親子で本を読むスペースを確保し読み聞かせに利用してもらったり、利用する子どもの発達に合わせた絵本を置いたり、保護者向けの本を購入し、貸し出しを行った。旧作の絵本や児童書を地域の方や保護者の方から寄贈いただいたものを配架し、資料の充実にも努めている。 ・月齢や季節に合わせて絵本や紙芝居の読み聞かせを行う。あかちゃん講座や行事の中で、図書館の図明やお勧めの絵本などを紹介する。月に一度ボランティアの方によるおはなし会を開催し、お勧めの絵本の紹介や読み聞かせなどを行う。図書館司書または図書ボランティアの方による、絵本の紹介や読み聞かせを行う。絵本のリサイクルを行う。 ・月間絵本と紙芝居は定期購入し毎月利用の親子に読み聞かせをしている。 ・子どもたちが好きな絵本や興味のある絵本を購入した。 ・職員感想等のポップを付けるなどの工夫している。 ・予算の制限により思うような図書の購入につながらない。
2-1-2	◎ 読み聞かせやおはなし会の実施			
15	ア 各施設が独自に企画する子供を対象とした行事の中に、今後も読み聞かせやおはなし会を積極的に取り入れていきます。また、妊娠中の母やその家族を対象とした行事では、胎児期からの読み聞かせの重要性を伝えていきます。	社会教育課	A	金谷公民館の「げんきキッズ」や、北部ふれあいセンターの「おはなしカフェ子供クッキング」において、絵本の読み聞かせを実施した。
16	イ 公民館等は、読み聞かせボランティアの活動拠点としての利用を促進し、親子で本に親しむために、本の楽しさや魅力を伝え、本との出合いの場となるよう努めます。	社会教育課	A	6施設において、地域の読み聞かせボランティアが施設を会場におはなし会を実施した。
2-1-3	◎ ボランティアの育成			
17	ア ボランティア活動をホームページ等で紹介し、関心を持ってくれる人を増やすことに努めます。	社会教育課	B	市ホームページにおいて、各地域のおはなし会や読み聞かせボランティアの活動を掲載した。新たなボランティア募集にあたり、現在は地域のボランティアが集いおはなし会を実施しているため、どんな人材がどの地域でどのくらい求めているか、各ボランティア団体と打合せして進めていく。
18	イ 地域学校協働活動推進員を活用し、保護者や地域から人材を発掘します。	社会教育課	B	地域学校協働活動推進員が各学校の読み聞かせボランティアと連絡調整を行っている。新たなボランティア募集にあたり、現在は地域のボランティアが集いおはなし会を実施しているため、どんな人材がどの地域でどのくらい求めているか、各ボランティア団体と打合せして進めていく。
19	ウ ボランティアを育成していくために、関係機関は講習会や研修会の充実にも努めます。	図書館課 社会教育課	B	金谷図書館において、読み聞かせの基礎を学ぶ読み聞かせボランティア講座を開催した。参加者21名。読み聞かせボランティアの存在をアピールすることができ、関心を寄せる方が数人確認できた。
2-1-4	◎ ボランティアの活用			
20	ア 公民館等での読み聞かせだけでなく、地域の行事や幼稚園・保育園等、放課後児童クラブにおいても読み聞かせを行うことを進めます。	社会教育課	A	読み聞かせボランティアが、地域の通学合宿や、幼稚園、保育園等に出向いて読み聞かせを実施した。
21	イ 読み聞かせボランティアとの情報交換や家庭教育学級で読み聞かせの大切さを伝える講座を行うなど静岡県子ども読書アドバイザーの活用を進めます。	社会教育課	A	読み聞かせボランティアと県子ども読書アドバイザーの代表者会議を開催し、子供の読書活動推進への課題に対する協議や情報交換を行った。また、家庭教育講座として読み聞かせ講座を年2回実施した。
2-1-5	◎ 市立図書館との連携			
22	ア 公民館等と市立図書館が連携し、図書館職員が子供たちの興味・関心を考慮して児童書を選書し、本の入れ替えを継続します。	図書館課	A	公民館等の図書室を図書館の地域館として整備し、定期的に本の入れ替えを実施しているため、利用する方が増えている。
23	イ 公民館等や博物館での事業や企画と関連づけて市立図書館で本の特別展示を行うなど、連携事業を行います。	図書館課	B	公民館等や博物館での事業や企画と関連づけた本の特別展示を実施したが、貸出率等の調査は行わなかった。今後は、貸出状況を調べ、コーナー設置の効果を検証していきたい。
24	ウ 市立図書館が発信しているおすすめ本やイベントに関する情報を、公民館等、児童センターや児童館、地域子育て支援センター、放課後児童クラブに提供します。	図書館課	B	おすすめ本やイベントに関する情報が掲載されたチラシを施設に配布するとともに、SNSでも発信した。
25	エ 子供の発達段階に合わせた選書の知識や情報収集力を養うとともに、読書活動に関する技能の向上を図るため、児童センターや児童館、地域子育て支援センター、放課後児童クラブの職員を対象とした読書活動に関する研修を実施します。	子育て応援課	B	・園内での勉強会 ・読み聞かせ専門の先生を呼び、知識や技術の習得。 ・図書館職員がきた際に質問し、勉強させてもらっている。 ・年に数回推薦図書の紹介。 ・読み聞かせの技術習得を目的として各自視聴している。 ・絵本の外部講師を招き、指導を受けている。 ・ベテランの職員によるOJT

3 幼稚園・保育園等及び学校における子供の読書活動の推進		担当課		
3-1	(1) 幼稚園・保育園等における子供の読書活動の推進			
3-1-1	◎ 図書資料・コーナーの充実			
26	ア 幼稚園・保育園等に対して、単に蔵書数を増やすだけでなく、子供の発達段階に応じた興味に沿う図書資料の充実を推奨します。	保育支援課	A	市内保育所・幼稚園・認定こども園・地域型保育所の全35園中、蔵書数が増えた園、発達段階に応じた図書資料を揃えるようにしている園が8割以上であった。 今年度、図書を購入等し、蔵書数が増えている園→31園 発達段階に応じた図書資料等を揃えるようにしている園→35園
27	イ 読書活動の中核である幼稚園・保育園等の図書コーナーがより本の読みやすい場となるよう整備を促します。	保育支援課	A	6割以上の23園が整備を行った。 ・本棚の整備 カバーベットの敷くなどしてコーナーとホールとの区別をした。 ・ゆつくりとくつろいで絵本が見れるようにコーナーに畳を敷いた。 ・季節に合わせた絵本や、子どもたちの興味に沿った絵本を選びやすいよう各クラスに並べて置いた。 ・玄関横のロビーに絵本コーナーを設け、貸し出しを行っている。
3-1-2	◎ 職員等に対する研修の充実			
28	ア 子供の発達段階に合わせた選書の知識や情報収集力を養うとともに読書活動に関する技能の向上を図るため、職員を対象とした専門講師による読書活動に関する研修を支援します。	保育支援課	B	9園が研修を実施した、または実施予定。 ・こどもの友社「年齢・発達に合わせた絵本の選び方」 ・来年度の年齢別月間絵本選択会議（法人内研修） ・絵本や紙芝居の読み聞かせのしかた また、10園が市の図書館支援員による研修を希望している。 ・ブックスタート、おはなし宅急便 ・歳児、発達にあった絵本の選び方 ・保護者への啓蒙の仕方
3-1-3	◎ 関係機関との連携の促進			
29	ア 学校、市立図書館等との連携を密にするとともに、読み聞かせボランティアグループとの連携を一層深め、読書活動を充実させます。	保育支援課	B	市立図書館、読み聞かせボランティアと連携して読書活動を行なっている園は19園であり、全体の半分程度にとどまっている。 コロナ禍で困難な部分もあるが、連携する施設を増やしていく試みを行なう。
3-1-4	◎ 読書活動の工夫			
30	ア 乳幼児期における読書活動は、人との温かなふれあいを基盤に視覚や聴覚を通して様々に取り組まれることが大切です。幼稚園・保育園等においては、読み聞かせやパネルシアター、エプロンシアターなど、多様な読書活動を展開するとともに、保護者自身も絵本に親しむよう働きかけます。	保育支援課	A	8割以上の31園が読み聞かせなど多様な読書活動を行っている」と回答した。 ・読み聞かせ（保育士、読み聞かせボランティアサークル） ・パネルシアター、エプロンシアター、ペープサート、ブラックシアター ・指人形、大型絵本、朗読劇、手袋シアター ・絵本の貸出、保護者にも研修を実施。（家庭での読書推進） ・小人数や個々への読み聞かせなど、読み聞かせの用法に配慮している。
31	イ 子供の読書活動への興味や関心を高めるとともに、読書意欲を引き出すため、「島田市子ども読書100選」の推奨など、幅広い分野の選書に努めます。	保育支援課	A	半数以上の22園が、「島田市子ども読書100選」を参考にしていると回答した。
3-1-5	◎ 障害のある子供に対する読書活動の支援			
32	ア 障害のある子供たちの発達に応じた絵本やペープサート等で、読書や本に興味を持ち、楽しめるよう支援していきます。また、繰り返しのフレーズがある大型絵本等を読み、言葉の発達も促します。	保育支援課 子育て応援課	B A	16園が障害のある子供たちに対して、読書を楽しめるように支援していると回答した。 ・発達に応じた絵本を選ぶようにしている（実年齢よりも低い年齢用の絵本や、興味に沿った絵本など） ・1対1での読み聞かせを大切にしている。 ・午睡のときなど、毎日、同じ時間に読み聞かせをして、信頼関係づくりをしている。 ・保護者にも個別に絵本に興味を持つことの大切さや本の扱い方を伝える。  ・図書館による団体貸出を月1回以上利用し、児の発達に応じた様々な絵本や紙芝居などを用意することで、児が読書に興味を持つように働きかけることができた。 ・読み聞かせの会では、一方的に聞くだけでなく、「絵本に合わせて一緒に声を出す」場面も多く作り、言葉の発達を促した。 ・発達や興味によってペープサートや大型絵本を取り入れている。一緒に歌える絵本をりょうして親子で口ずさんで遊ぶ。

	3-2	(2) 学校における子供の読書活動の推進			
	3-2-1	① 読書活動の充実			
	3-2-1-1	◎ 学校図書館に係る年間指導計画等の活用			
33	ア	各教科や特別活動、総合的な学習の時間等全教育活動を通して学校図書館の活用と図書活用が図られるよう、各学校で学校図書館に係る年間指導計画等を教育課程にこれまで以上に位置づけます。	学校教育課	A	各校、年間指導計画を元に学校図書館を活用した授業に取り組んでいる。図書館担当と支援員が連携し、状況に応じて活用する方法を検討しながら行うことができている。
	3-2-1-2	◎ 読書活動及び学校図書館を活用した学習活動の充実			
34	ア	学校図書館の「読書センター」、「学習センター」及び「情報センター」としての機能の充実を図ります。新学習指導要領に基づく「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を進め、図書を活用した調べ学習や対話活動、表現活動等を充実させ、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力の育成を図ります。	学校教育課	A	担当者研修会等を通して、学校図書館の「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を充実させてきている。各教科の調べ学習、ビブリオバトル、並行読書、ICTの活用など学校図書館を利用した授業を今度も一層充実させていきたい。
	3-2-1-3	◎ 一人一台タブレット端末と学校図書館、読書活動の連携			
35	ア	タブレット端末を使って調べた資料と学校図書館の資料、読書活動の中で得た情報をつなげて考える学習に意識して取り組みます。	学校教育課	A	タブレットからの情報と図書資料からの情報をつなげて学習活動を進めている。
	3-2-1-4	◎ 多様な文に触れる機会を作る			
36	ア	様々な種類の本を読む機会を授業の中で作っていきます。授業に関連した本の並行読書や新聞を使った学習、新しく始まった外国語に関する本などの紹介をして子供たちの興味を広げます。	学校教育課	A	授業に関連した本の並行読書を中心に、担当や支援員が子供たちの興味を広げる様々な本の紹介を行っている。
	3-2-1-4	◎ 本に親しむ機会の提供			
37	ア	朝読書や読み聞かせが多く学校の学校で実施されているので、今後も継続するとともに、よりよい選書や活動内容の充実を図ります。	学校教育課	A	継続して充実を図っていく。様々なジャンルに触れるよう、意識的に取り組む。
38	イ	子供の読書の実態を十分に踏まえた読書活動を推進します。例えば、図書委員会が中心となって、新刊やお気に入りの本を紹介するため、ビブリオバトルや本の帯を企画するなど読書活動を盛り上げるための活動を進めます。	学校教育課	A	それぞれの実態に応じた活動が図書委員会を中心に行われている。読書週間の中でスタンプラリーや本の紹介など児童生徒のアイデアを生かしたイベントを行っている。
39	ウ	家庭での不用本や寄贈本を集め、本の交換コーナーを設置し、子供たちが本に触れる機会を増やします。	学校教育課	B	谷田川報徳社から寄贈される本を含め、家庭からの寄贈本を紹介している学校もある。
	3-2-1-4	◎ 鳥田市子ども読書100選の推奨			
40	ア	子供が良書に出会い、読書の楽しみを味わえるよう「鳥田市子ども読書100選」を推奨し、令和6年度改訂を目指して検討していきます。	学校教育課	A	100選のコーナーの活用はできている。内容の改訂については今後必要性、内容を含めて検討していく。
	3-2-1-5	◎ 家庭での読書の推奨			
41	ア	保護者会、入学説明会、家庭教育学級や学校だより等で、読書の意義や必要性、読書の楽しさを保護者に啓発します。	学校教育課	A	学校司書等と連携し、親子で同じ本を読む機会を作ったり、良書を紹介する取組を行っている。
42	イ	読書習慣の定着と読書を通して家族のコミュニケーションを深める「家庭読書」を広く勧めています。	学校教育課	A	親子読書や家読を設定し、読書の習慣化を図っている学校が多い。
	3-2-1-6	◎ 障害のある子供の読書活動の推進			
43	ア	特別支援学級では、発達の段階や障害の状況、多様なニーズに応じた学級文庫を充実させます。	学校教育課	A	特別支援学級の増加に伴い、専用の図書を用意する学校が増えている。デジ教科書の活用も広がっている。
44	イ	多様な図書資料を活用するため、市立図書館との連携を図ります。	学校教育課	A	必要であれば市立図書館とも連携し、選書等も行っている。
45	ウ	障害のある子供が利用しやすいように、配架や書架の高さや表示等に十分配慮し、貸出・返却方法の簡素化を進めます。	学校教育課	A	ユニバーサルデザインを意識した学校図書館作りができている。だれにでも居心地の良い空間作りに努めている。
46	エ	「放課後等サービス」での読書活動を展開していくために必要なその障害の特性に応じた学習資料が充実するよう支援していきます。	学校教育課	B	放課後サービスを利用している子供たちにあった学習資料の提供に努めている。

	3-2-2	㊷ 学校図書館活動を推進・支援する人的な体制の充実			
	3-2-2-1	㊸ 学校体制づくりや司書教諭・学校司書の配置・促進			
47	ア	校内では、校長のリーダーシップの下、司書教諭・学校図書館担当者が中心となり、図書館活動のための協力的な体制づくりを一層推進します。また、司書教諭がコーディネーター的な役割をし、教員一人一人が学校図書館を活用した授業を行えるよう促します。	学校教育課	A	司書教諭や担当者が支援員と連携して図書館活動や図書館を活用した授業を行っている。担任と支援員が連携して行う授業が日常的に行われている。担当者や担任と支援員が打合せをずらす時間がとりにくい現状はあるが、各校工夫してスムーズに行われるようにしている。
48	イ	12学級以上の学校だけでなく、11学級以下の学校にも司書教諭資格者を配置できるよう努めるとともに、学校内における司書教諭の職務に対する理解を促します。	学校教育課	B	12学級以上の学校は配置できている、それ以外の学校も可能な限り配置している。司書教諭の業務による時間確保については授業時数の増加や人員等により、多くの課題がある。
49	ウ	学校司書の教員兼務が解消されるように計画的に配置します。	学校教育課	B	引き続き体制を検討していく。現状2校兼務で行っている。
50	エ	コロナ禍でリモート授業が実施されるなど、子供たちの学習環境変化を余儀なくされ読書活動も制約されがちですが、家庭での読書を奨励したり、課題図書を紹介したりするなど、働きかけをします。	学校教育課	A	学校司書を中心に、積極的に読書活動を推進するために良書の紹介などに取組、働きかけを行っている。
	3-2-2-2	㊹ 学校図書館に係る研修の実施			
51	ア	図書館教育や読書指導の一層の充実を図るために、今後も司書教諭・学校図書館担当者や学校司書を対象とした研修会を年2回以上開催し、資質の向上を図ります。	学校教育課	A	司書教諭・図書館担当者・学校司書を対象とした研修会を開催し、資質の向上が図られている。図書館で開催し、実際に連携してどう取り組んでいくかを具体的に検討することにも取り組んでいる。
	3-2-2-3	㊺ 学校司書・図書ボランティアとの連携			
52	ア	学校司書は、学校図書館の諸事務に当たるとともに、レファレンスサービスや教材等の準備への協力など、教員と連携します。	学校教育課	A	学校司書が積極的に教職員に働きかけ、教材の準備等を行っている。授業者と連携しながら学校図書館を活用した授業作りに取り組んでいる。
53	イ	学校の読書活動の充実と学校図書館の活性化のために、各学校の実情に応じて、静岡県子ども読書アドバイザー等を活用し、ボランティアを導入したり、ボランティアとの協力体制を整えたりしていきます。	学校教育課	A	学校図書館の環境整備や読み聞かせボランティアなど、積極的にボランティアの活用が行われている。
	3-2-3	㊻ 学校図書館環境の充実			
	3-2-3-1	㊼ 魅力的な図書資料等の計画的な整備・充実			
54	ア	子供の知的活動を促進し、様々な興味・関心に応えるため、また各教科等における多様な学習活動を展開するために、学校図書館に配置されている新聞を活用するとともに、必要な幅広い分野の資料を計画的に整備し、そのための資料費の確保に努めます。	学校教育課	A	授業で活用したい本のアンケートを取るなど、ニーズにこたえた図書館作りに努めている。
55	イ	情報が古くなった図書資料の除籍・更新を進めながら、計画的な図書購入によりすべての学校で図書標準100%を達成します。	学校教育課	A	計画的に進んでいる。数校廃棄の関係で100%にならない学校もあるが、達成できていると考える。
	3-2-3-2	㊽ 学校図書館・校内の環境整備			
56	ア	学校図書館が子供にとって行ってみたいくなる場となるように、季節感あふれる掲示やくつろいだ雰囲気読書ができる環境整備に努めます。また、校内に学校図書館に誘うための掲示や仕掛け作りをします。	学校教育課	A	各校担当やボランティアを中心に、過ごしやすい環境整備に努めている。
57	イ	子供にとって魅力ある図書資料や学習に活用できる資料が見つけやすく、手に取りやすい状態で配架されていることも大切です。書架や資料自体の配置について、工夫・改善します。	学校教育課	A	分類法による配架を行い、研修でも書架や配置について全体で研修をして学んでいる。
58	ウ	学校図書館の新刊本や、おすすめの本の紹介などの情報発信、図書館に入れて欲しい本、子供たちの声を集めるなどの情報収集にタブレットを使用する等、学校に応じた創意ある活動を工夫していきます。	学校教育課	A	各校担当を中心に、創意活動に取り組んでいる。
	3-2-3-3	㊾ 学校間、市立図書館との連携			
59	ア	子供たちへの図書資料提供が充実するために、市立図書館の団体貸出や学校間協力貸出を活用します。また、団体貸出搬送業務についても検討していきます。	学校教育課	B	団体貸出等を行うことで、図書館資料の活用は進んでいるが、学校間や搬送業務については引き続き検討が必要である。
60	イ	学校間の資料検索については、学校図書館間LANシステムの構築に合わせて検討します。	学校教育課	B	検討はしているが、実現は難しい状況である。
61	ウ	司書教諭や、学校司書の研修会等で、学校ごとの創意ある活動の工夫や選書の情報を共有していきます。	学校教育課	A	研修会を通して、担当者同士が理解を深めている。
62	エ	市立図書館の読書通帳、My本棚のデータと学校図書館の貸出履歴を合わせて蓄積できるよう工夫していきます。	学校教育課	C	それぞれのデータの蓄積になっているので、合わせる方法の検討をしていく。
63	オ	小学校2年生の「公共図書館へ行こう」という授業をきっかけに子供一人一人が市立図書館の活用を学び、繋がりを形成できるよう促進していきます。	学校教育課	A	各校計画をたてて見学を行い、利用や活用の促進が図られている。

4 市立図書館における子供の読書活動の推進		担当課		
4-1	(1) 市立図書館の整備と事業の充実			
4-1-1	◎ 図書資料等の充実			
64	ア 子供の読書意欲を高め、調べ学習に取り組む子供の期待に応えることができるよう資料の充実を目指し、そのための資料費の確保に努めます。	図書館課	A	・毎週、選書会議を開き、調べ学習に役立つ児童書を選書している。 ・R5年度は、前年と同額の予算を確保できた。
65	イ 図書館の本を利用したくなるよう、各館ごと、毎月異なるテーマで特集コーナーや企画展示を実施します。	図書館課	B	・児童の利用増加を図るため、長期休暇前に金谷地域の小中学校の学校図書館に市立図書館蔵書紹介コーナーを設置し、休暇中の図書館利用を促した。 ・「島田図書館にきてね」という新刊リストを市内の小中学校全校に掲示している。 ・各館の児童書フロアに、季節や行事に沿った特集コーナーを設置している。 しかし、小中学生の利用は減少傾向にあるため、学校を通して市立図書館の利用を促していきたい。
66	ウ 小学校高学年から中学生、高校生向けの本を集めた「YA（ヤングアダルト）コーナー」の資料を充実していきます。	図書館課	B	・市内の中学校・高等学校へ、市立図書館からのおすすめ本や利用案内を載せたチラシを配布した。 ・毎週選書会議を開き、中学生向けの本を選書している。 ・地元の中学生在がボランティアとしてYAコーナーの整備を行った。
4-1-2	◎ 子供と本を繋ぐ活動			
67	ア 「おはなしマラソン」や毎月の定期的な「おはなし会」、「おはなし宅配便」、「おはなしギフト」を読み聞かせボランティアと協力し、実施していくとともに、子供が本に親しむきっかけを広く提供できるよう努めます。	図書館課	A	・新型コロナウイルス感染防止対策を取り、例年通り3館でおはなし会を実施した。 ・島田図書館で、おはなし会とイベントを組み合わせた「ぬいぐるみの図書館おとまり会」を開催した。 ・「おはなしマラソン」を島田・金谷図書館で実施した。 ・認定こども園・幼稚園・保育園・こども発達支援センターで「おはなし宅配便」を実施した。 ・地域子育て支援センター、つどいの広場、子育て広場において「おはなしギフト」を実施した。 ・「おはなし宅配便」「おはなしギフト」に図書館員だけでなく、県読書アドバイザーが参加することで、保護者に読書の大切さを周知する機会を増やした。 これらの事業により、子供が本に親しむきっかけ作りを幅広い分野で行うことができた。
68	イ 保護者が、赤ちゃんの泣き声や子供のおしゃべりを気にすることなく館内でゆったり過ごせるよう、「あかちゃんタイム」を設け、児童フロアを開放します。	図書館課	B	R4年10月より、島田・金谷・川根図書館において「あかちゃんタイム」を開始し、広報に努めているが利用状況は実施前と大差ないため、実施時間に合わせ「あかちゃんにおすすめ絵本」の展示をする等、図書館へ足を運びたいくなるような策を講じる必要がある。
4-1-3	◎ 読書ガイドブック（ブックリスト）の作成及び広報			
69	ア 子供たちに魅力的な読書情報を伝えるため、7か月児健康相談時にブックスタート用「赤ちゃんとはじめての絵本リスト」、3歳児健康診察時に「3才からのおすすめ絵本リスト」、定期的な広報紙として年2回発行の「こどもとよかんだより」を引き続き作成していきます。また、「新刊案内」「図書リスト」等のデータは電子化し、図書館ホームページに掲載し、随時更新していきます。	図書館課	A	・「あかちゃんとはじめての絵本」「3才からのおすすめ絵本」は定期的に内容を一新している。 ・「図書館福袋」「図書館おみくじ」「本の帯まつり」等のイベントを実施し、普段自分では手に取らない分野の本との出会いを演出している。 ・「こどもとよかんだより」をカラー印刷し、すべての小学校の全クラスに配布している。また、図書館HPでも公開している。
70	イ 中学生・高校生を対象にしたおすすめ本リーフレット「ひまはま」の内容を更に充実させ、市内の中学校・高等学校に配布するとともに、図書館内にコーナーを設置します。	図書館課	B	・YA向け情報誌「ひまはま」を年4回発行し、市内中学校、高等学校へ配布し、YA世代に広く広報することができた。 しかし、中学生の貸出冊数は増加していない。

	4-1-4	◎ 専門的職員の確保・養成			
71	ア	子供の読書活動を支援する専門的な知識やスキルをもった職員の確保・養成をします。各種研修会や講習会を受講させ、子供の調べ学習やレファレンスに適切に対応できるようにします。	図書館課	B	職員が、静岡県立中央図書館の「児童サービス研修」等を受講することで、児童・生徒の調べ学習やレファレンスに対応できるスキルを身に付けている。
72	イ	日々の業務を通して職員の資質を向上させ、読み聞かせに関する各種講座や学校の家庭教育学級等で、講師が務められるよう養成します。	図書館課	B	・小学校の家庭教育学級で、家庭における読書の機能等について講座を実施した。 ・社会教育課主催の講座に参加し、図書館のPRや児童書の紹介をする等の実践経験を積み、職員の資質向上を図った。
	4-1-5	◎ ボランティアの養成			
73	ア	読み聞かせボランティアや修理・書架整理ボランティアを養成するための講座を継続的に開催し、講座内容の充実とボランティア希望者の増加を図ります。	図書館課	A	読み聞かせボランティア養成講座、修理ボランティア養成講座を開催し、ボランティア登録数が15人増加した。
	4-1-6	◎ 特別な支援が必要な子供の読書活動支援			
74	ア	静岡福祉大学と連携し、支援が必要な子供たちや障害者が利用できる資料の展示や収集に努めます。	図書館課	C	・拡大読書機を（島田・金谷・川根にそれぞれ1台ずつ）設置している。 ・布絵本やデジター図書を導入し、専用のコーナーを設置した。 ・静岡福祉大学との連携事業は実施できなかった。
75	イ	在住外国人の子供が気軽に図書館を活用できるよう、外国語による児童書を充実させます。	図書館課	B	様々な言語の洋書を所蔵し、図書館内にコーナーを設けている。 外国語の絵本を利用する親子の姿も見受けられるが、回数は多くない。
76	ウ	こども発達支援センターや特別支援学校に通う子供を対象とした図書館見学を積極的に受け入れ、館内でのびのびと本と触れ合い、読書の楽しさを知ってもらう機会を作ります。	図書館課	A	・3館ともバリアフリー対応の施設である。 ・休館日にこども発達支援センター「ふわり」の子供たちと保護者を島田図書館に招待し、館内でおはなし会を楽しんだり、ゆったり過ごしていただく「すまいるタイム」を実施（今年度は2月20日に実施し、子供・保護者・職員含め50名が出席する予定）
77	エ	点字図書やマルチメディアDAISY図書の充実など、誰もが快適に利用できるよう、読書のバリアフリー化を進めます。	図書館課	B	点字図書やマルチメディアDAISY図書が寄贈された際は、早急に登録し利用可能にしたが、貸出実績は8点だった。
78	オ	不安や生きづらさを感じている子供が、前向きになれるような資料を充実させ、SNSなどのメディアで来館を呼びかけます。	図書館課	B	子供達の心に寄り添う資料を意図的に購入し、Facebookやホームページで所蔵状況について発信した。しかし、定期的な発信には至っていない。
	4-1-7	◎ 感染症への対応			
79	ア	子供たちが安全安心に図書館を利用できるよう、館内環境の保全や貸出方法の工夫をして、感染防止対策の徹底に努めます。	図書館課	B	館内や返却本の消毒に加え、除菌ボックスを活用することにより、感染防止対策の徹底に努めた。また、本の自動貸出機の利用を勧めた。

	4-2	(2) 学校図書館や幼稚園・保育園等、公民館等との連携	図書館課		
	4-2-1	㊦ 施設見学、勤労体験の受け入れ			
80	ア	図書館見学の受け入れを積極的に行い、図書館のしくみや利用方法、本の探し方などについてわかりやすく解説します。また、見学に合わせ図書館カードを作成することで、利用促進に繋がります。	図書館課	A	<施設見学の受け入れ> ・島田図書館 14校、798人（うち市外小学校1校15人、実業高校1校167人） ・金谷図書館 2校、136人 ・川根図書館 1校、165人 令和5年2月12日現在 ※市内の小学校17校中15校の児童を受け入れ、利用案内を行った。
81	イ	中学生、高校生、大学生の勤労体験や小学生の一日体験図書館員の希望者を受け入れ、図書館業務について理解を深めてもらいます。	図書館課	B	・中学生の勤労体験学習（島田3校5人、金谷2校2人、川根0校0人） ・小学生夏休み一日体験図書館員（島田8人、金谷4人、川根2人） ※コロナ禍のため、受入人数を増やすことは難しい。
	4-2-2	㊦ 関係機関との連携			
82	ア	団体貸出サービスやレファレンスサービスを知ってもらい、有効に活用していただくよう、公民館等、幼稚園・保育園等及び学校など関係機関に周知します。	図書館課	B	・団体貸出などについての利用案内を各学校へ配布した。 ・夏休みなどの長期休暇の前に、市立図書館の蔵書紹介コーナーを学校図書館内に設け、長期休暇中の市立図書館の利用を促した。 ※団体貸出の増加には至っていない。
83	イ	健康づくり課と共催している「ブックスタート事業」以外にも、他課等と連携した新たな読書支援事業を実施し、子供たちとその保護者に読み聞かせの大切さを伝える機会を作ります。	図書館課	A	・社会教育課主催の研修会に講師として出席した。 ・地域子育て支援センターにおいて出前講座を実施した。 ・子ども館主催の「すくすくタイム」での講座に講師として出席した。 ・子育て応援課主催の地域子育て支援センター職員向け講座に講師として出席した。 ・不登校の子を支援するNPO団体へ向け、おはなし会を実施した。
84	ウ	子供たちに一人一台貸与されたタブレット端末に図書館のホームページを登録してもらい、端末から本の検索や予約ができるよう学校に働きかけます。	図書館課	B	司書教諭研修会で、子供達の端末に図書館のホームページを登録し、資料の検索や予約をしてもらうよう呼び掛けた。
85	エ	図書館職員が学校司書や司書教諭の連絡会に出席し、図書館の広報をするとともに各々の学校と個別にどのように繋がりが、可能性を広げていけるかを話し合います。	図書館課	B	学校司書や司書教諭の連絡会に出席し、交流することで各校と繋がりが、個別の対応（本の除籍補助、選書のアドバイス等）をすることができた。
86	オ	学校の年間指導計画に沿った図書館資料を揃え、授業をサポートできる体制を整えます。	図書館課	B	年間の学習計画に沿った調べ学習用の本や並行読書用の本を貸し出すことができた。
87	カ	市立図書館を一度も利用したことのない子供にも多種多様な図書資料に触れる体験をしてもらうため、学校への団体貸出を更に充実させます。	図書館課	B	団体貸出の本を活用してもらうことにより、子供達の学習を深めることができた。
88	キ	地域の高校生を小中学生対象の講座に招き、学校紹介をもらうとともに、その内容に沿った関連資料を展示・貸出します。	図書館課	C	図書館の講座に参加した少数の子供達を対象にするより、高校生の校外学習（地域の小中学校の講師として出向く授業）に図書館職員が参加する方が、より多くの子供達に資料を提供できるため、年度当初に高校の年間計画を教えてください、効果的に授業に関わってほしい。
89	ク	幼稚園・保育園等や学校だけでなく、子供会、PTA、子育てサークル等と連携した事業を実施し、多面的に読書活動を支援します。	図書館課	B	放課後児童クラブや放課後デイサービス、子育て支援センター等に本を貸し出すことにより、読書支援の場を広げることができた。
90	ケ	博物館の事業や企画と関連づけて本の特別展示を行うなど、連携事業を行います。	図書館課	B	博物館の事業や企画と関連づけて本の特集コーナーを設置し、貸出を行ったが、成果の検証まではできていない。
	4-2-4	㊦ 「子ども読書の日」「読書週間」を通じての啓発・広報			
91	ア	イベントの開催や特集コーナーの設置に合わせ、様々なメディアを通した図書館のPRを継続的に行います。	図書館課	B	図書館ホームページに「こどもとしゃかんだより」を掲載し、年齢や季節に合った児童書を紹介した。 フェイスブックで、おはなし会やイベント等の情報を発信したが、利用者増に至っていない。
92	イ	国際交流協会と連携し、ネイティブな外国語のおはなし会を実施することで、多言語に親しむ機会を創出します。	図書館課	B	現在は、元英語教師による「英語のおはなし会」を実施している。今後は、国際交流協会主催のイベントの中で「様々な言語によるネイティブなおはなし会」を実施していきたい。